

臨床研究「手術麻酔挿管時の歯牙損傷と挿管デバイスの関係の検討」について

筑波大学附属病院麻酔科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

全身麻酔では呼吸が抑制されるために、全身管理において気道の確保が重要です。気管に専用チューブを挿入することで確実な気道確保をすることができます。今まで喉頭鏡（直視型喉頭鏡）を用いて喉頭・声門を直視しチューブを挿入していましたが、近年、ビデオカメラがついた喉頭鏡（ビデオ喉頭鏡）が登場し、頸部伸展後屈を要さずに声門を観察しながら挿管ができるようになりました。ビデオ喉頭鏡は頸部伸展後屈を要さないことから喉頭展開に伴う歯牙への負担が減るのではないかとの考えから、動揺歯などの歯牙損傷のリスクのある患者には直視型喉頭鏡ではなくビデオ喉頭鏡が選択されることが多くみられます。しかし、ビデオ型喉頭鏡では術者の視線がビデオに集中するために、直視型喉頭鏡に比較し歯牙が視野に入りにくく、歯牙への注意がむしろ減ることで損傷を起こしやすいのではないかと考えたビデオ喉頭鏡は機器の特性から直視型喉頭鏡と比較し歯牙損傷が多いのではないかと考え電子麻酔記録を導入以降の症例で、ビデオ喉頭鏡と直視型喉頭鏡での歯牙損傷の割合を比較検討することで、歯牙損傷リスクのある患者様へのビデオ喉頭鏡使用への注意を喚起を行うことで、挿管に伴う歯牙損傷を減らすことを目的としています。

② 研究対象者

2008年4月1日から2025年06月30日までに当院で手術麻酔時の気管挿管で歯牙損傷の合併症が生じた方

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2025年11月30日まで

④ 研究の方法

当院のインシデント・オカレンス報告システムに登録された歯牙損傷患者様を対象とし、該当患者様の電子麻酔記録 ORSYS の術前診察の情報から患者の年齢、身長、体重、BMI および術前の歯牙損傷のリスクを抽出します。また、電子カルテおよび電子麻酔記録から挿管困難、歯牙損傷のリスク、電子麻酔記録に登録された挿管時の情報（用いたデバイス、チューブなど）や声門の見え方、麻酔導入開始から挿管までの時間を調べる分析します。歯牙損傷患者に用いられたデバイスの割合を比較します。

⑤ データ管理責任者名

筑波大学附属病院 山本 純偉

⑥ 研究機関名および研究責任者名

筑波大学附属病院 山本 純偉

⑦ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、情報の利用または提供の停止を

希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑩ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：麻酔科 担当 山本 純偉

電話・FAX・029-853-3092（平日9～17時）